



編集後記

●……元横綱・日馬富士による高ノ岩関への暴行・傷害事件。角界を舞台にした蛮行に、マスコミは凄まじい報道合戦を展開。一方、国会に目をやれば「森友・加計」問題で野党と安倍政権が攻防戦。しかも2017年11月29日には、北朝鮮がICBM「火星15」の発射実験を強行。こちらは「金正恩委員長vsトランプ大統領」の「ガチンコ勝負」だ。だが、TVのワイドショーを見る限り、角界の不祥事一色で、「モリ・カケ」や「ミサイル」の話題はかき消されてしまった格好。この状況を「渡りに船」と欣喜雀躍する向きが、永田町・霞が関界隈にいそろな気がするが……。

いわばライバル。そんなパットンがある日、傷病兵の慰問に病院を訪れると、特に外傷もなく、ベッドで怯える若い兵士の姿が。激怒したパトンは「前線に皆が奮闘しているのに、弱虫め！」と、兵士の頬にビンタ。だが、これをマスコミが報じ全米は大騒ぎになり、結局軍首脳部はこの大將軍を降格、暫く冷や飯を食う羽目に。若い兵士は、現在でいう「シエルショック（戦争神経症）」だったわけだが、当時はあまり認識もなく、パットンとしては「臆病者」に我慢がならなかったようだ。偉大な將軍であっても、米国は「なあなあ」で見逃さず重い処分を臨んだ。「過ぎたるは及ばざるがごとし」だ。

●……日本海沿岸に北朝鮮籍のオンボロ漁船が大挙「襲来」。北海道の無人島・松前小島では、乗組員達が数日間居座り、漁協の小屋にある家電製品はもちろん、ドアノブや釘まで一切合財奪い去る始末。まさに「海賊」だ。無人島だったため幸いにも日本人に被害はなかったが、こうした漁船には、はつきりと「北朝鮮軍」と記したもあり、武装していると考えてもおかしくはない。だが、諸般の事情からか、日本政府はどことなく、波風立てずに穏便に済ませようとするフシが……。

国際法に照らし合わせれば、海軍所属の船舶はれっきとした「軍艦」。これが日本の領海・領土を侵犯した場合、明らかに「侵略行為」であり、日本政府は「ことは穏便」どころか、自衛隊に対する防衛出動、海上警備行動の下令の是非を真面目に検討すべき案件では、との意見も。それ以前に、これらを「なあなあ」で済ませば、「波浪凄まじい厳寒の日本海で命を懸けてイカを釣ってるよりも、手っ取り早く日本に上陸し、片っ端から金品を盗み去った方がよほどカネになるし簡単だ。万が一捕まっても、命を取られるわけもない……」と相手側が考え、ある日、夜が明けると、沖に数百隻のオンボロ船が出現——という、まるで元寇の再現のような光景が、日本海側の沖合に出現しかねない。マルコ・ポーロではないが、「日本は黄金の国だ」という、間違ったシグナルを送る愚は、ぜひとも避けてほしいもの。

超距離攻撃が可能なミサイル・JASSMを数千億円かけて導入するのでもいいが、もう少し足元の安全保障を真剣に考えるべきでは。(和)

月刊公論 MONTHLY KōRON

1月号 第51巻1号

平成30年1月1日発行 毎月20日発売
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人 大 中 吉 一 編集人 田崎義信 和泉貴志
発行所 株式会社社界通信社
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611代、FAX.03-5379-5616

印刷所 株式会社廣済堂
取次店 日本出版販売/大阪屋栗田

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。